

評価区分	今回評価結果
A：順調に進んでいる。	35事業
B：おおむね進んでいる。	29事業
C：進捗が遅れている。	1事業
D：取組内容の見直しが必要。	0事業

平成30年度（4月～3月）

# 上士幌町総合戦略施策検証シート

（令和元年5月1日現在）

1 地場産業で地域の活力を生み出すまち	P 1
2 子育て・教育の充実したまち	P 9
3 健康で安心して暮らせるまち	P 20
4 移住定住による人口減少をくい止めるまち	P 26
5 小さな拠点形成を目指すまち	P 30
プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版生涯活躍のまち	P 33

# 1 地場産業で地域の活力を生み出すまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年度末)
雇用充足	59人（H27調査）	59人	
新規雇用創出人数	—	30人	27人 / 90.0%

◇移住施策と連携した地場産業の人材不足解消

KPI

無料職業紹介所の相談件数	300件	達成度(30年度末)	321件 / 107.0%
--------------	------	------------	---------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇無料職業紹介所の開設 雇用確保への対策として、町内の雇用情報をとりまとめて広く発信。移住・定住の流れを生み出す可能性を高める	相談件数 300件	321件 (求人183 求職138) 107.0%  採用 3名	・WEBサイト等による情報発信を随時行うとともに、電話及びメールによる求人・求職者とのジョブマッチングを実施。  今後の対応 ・(株)生涯活躍のまち かみしほろと連携して職業紹介業務を推進する。	A	(成果) ・(株)生涯活躍のまち かみしほろと連携し約50社の登録事業所を訪問。求人情報の確認と合わせて、町との「職業紹介業務の提携」について内容を説明し同意を得た。連携により細かな対応や、情報提供が図られた。  (課題) ・職種等によっては、求職相談数が少ないため、求人を事業所に紹介出来ていない。	町民課
◇重点道の駅「仮称バルーン」整備	新規雇用者数 15人	—	・道の駅実施設計の実施 ・ナイタイ高原牧場レストハウス建設 ・各施設運営主体の設立	A	(成果) ・道の駅は、平成29年度の基本設計に基づき30年度は実施設計が完了し、次年度は建設工事を実施する。テナント募集の結果2事業者が決定し設計に反映。道の駅等整備推進委員会や町民説明会を各1回開催した。 ・ナイタイ高原牧場レストハウスは竣工となった。施設名称は「ナイタイテラス」とした。平成31年4月27日先行オープン、6月3日全面オープンの宣伝活動を実施。 ・各施設の運営主体である「上士幌町観光地域商社 (株)karch (カチ)」を平成30年5月に設立。道の駅実施設計への意見反映やナイタイテラス運営準備を行った。(株)karchは、平成30年7月に旅行代	商工観光課

					理業登録を完了し、モニターツアー（インバウンド）を3回実施。電力小売り販売登録は10月に完了。公共施設、JA施設を先行して平成31年2月から販売開始し、次年度から農家、一般家庭への販売を予定。 （課題） ・商品開発を進めるとともに、自立した経営を目指して推進する必要がある。
--	--	--	--	--	---

◇農林業の活力向上

KPI

農業生産法人数（H26年4月現在19件）	新規2件	達成度(30年度末)	1件 / 50.0%
新規就農・新規雇用の青年等	10人	達成度(30年度末)	3人 / 30.0%
青年等就農計画（平成27年4月現在2件）	新規3件	達成度(30年度末)	2件 / 66.7%
農業後継者の有配偶率	増加		—
上士幌町農商工連携補助事業によって商品化した件数	2件/年	達成度(30年度末)	4件 / 200.0%
バイオマスエネルギー地域利活用（農業：家畜糞尿、林業：木質チップ）	新規3件	達成度(30年度末)	3件 / 100.0%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇新規就農対策事業 本町の主要産業である農業の新規就農対策を推進し、農家戸数と農業者の確保を図る	新規就農人数 3件5人	新規就農人数 2件3人	・新規就農に対する相談について随時対応した。	B	（成果） ・1名が経営譲渡による新規就農に向け研修を行っている。	農林課
◇家畜糞尿処理バイオガスプラントの導入による家畜糞尿処理対策への支援 ◇畜産業の大型化に伴う家畜糞尿処理対策と発生するバイオガスエネルギーの利活用	バイオガスプラント整備 3か所に対する支援 新規雇用人数10名	バイオガスプラント 整備済 3か所 新規雇用人数10名	・バイオガスの利活用に向けた調査、研究を実施  今後の対応 ・バイオガスの導管敷設による遠隔地利用が具体的に進んだことから、新規事業の創出に向け情報提供を行って行く。	A	（成果） ・バイオガスの導管敷設による遠隔地利用の計画が進み、平成31年度に工事を実施する。 （課題） ・バイオガスを活用した新規事業の創出。	農林課
◇農業におけるアウトソーシング化への支援 地域農業の効率性・収益性向上と労働力の軽減	新規哺育事業への支援 新規雇用人数 6名		・育成施設の整備に向け、クラスター計画の変更及び補助事業の採択に向けた準備を進めた。	B	（成果） ・補助事業を申請し、平成31年度に育成施設の整備を行う予定となっている。	農林課
◇家庭形成に向けた出会いの機会創出支援（農業後継者）			30年度実績 ・北海道十勝農業青年との交流会（音更・鹿追・士幌・上士幌の4町実行委員会主催による本州女性との交流会）の開催（11月23～24日）4町12名参加（上士幌町	B	（成果） ・平成30年度において結婚した者はいないが、各種交流会におけるマッチング率は向上しており、連絡を継続している	農業委員会事務局

			3名)、7名マッチング(上士幌町2名) ・上士幌町農業青年婚活交流会(札幌交流会)の開催(12月7日)6名参加、2名マッチング ・上士幌町農業青年婚活交流会(帯広交流会)の開催(1月12日予定)9名参加、6名マッチング ・ALLとかち札幌交流会の開催(清水、池田、陸別、音更、士幌、上士幌の6町実行委員会主催による札幌近郊の女性との交流会)の開催(1月26日)上士幌町参加者無		者もいることから、今後も事業の継続と新たな取り組みを進める事で更なる成果が期待できる。 (課題) ・参加する青年の確保が難しい状況になっていることから、関係機関と協議し取り組み方法等の検討を進める。	
◇森林整備計画の推進			・森林経営計画に沿った森林整備の推進	B	(成果) ・適正な森林整備を実施している。	農林課

◇建設業の活力向上

KPI

建設業における求人	充足	達成度(30年度末)
-----------	----	------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇社会資本整備の充実		当初予定の各整備事業は完了	・道路改良舗装事業(まちなか住宅道路改良舗装工事、1区北6号線道路改良舗装工事、本町環状線道路改良舗装工事) ・市街地歩道補修工事(本町東1条通線) ・水道施設改良事業(東部地区配水管移設工事)	A	(成果) ・道路改良舗装の再整備について路盤構成等を見直し耐久性の向上が図られた。 (課題) ・今後も再整備や未舗装箇所の整備により安全な通行を図っていく必要がある。 ・安全で安定した給水等を行うため、今後も計画的に施設改修が必要である。	建設課
◇インフラの維持管理事業の推進		当初予定の各整備事業は完了	・橋梁長寿命化修繕事業(幌加橋、上多橋) ・道路舗装補修事業(上音更地区道路舗装補修工事、萩ヶ岡・北居辺地区道路舗装補修工事、北門・東居辺地区道路舗装補修工事) ・道路橋梁災害復旧事業(萩ヶ岡橋) ・町道等維持管理事業(機械除草、路面整正、道路側溝等清掃) ・公共下水道事業(汚泥脱水施設更新工事) ・水道施設事業(東部地区配水管更新工事)	B	成果) ・台風災害により通行不能となっていた橋を復旧することが出来た。 (課題) ・自然災害やインフラ施設の老朽化への対応は今後増加していくことが予想されるため、今後も計画的に改修等を行っていく必要がある。 ・農業機械の大型化や凍害によるインフラ施設全般の対応策について検討していく必要がある。	建設課
◇建設業における人材育成に対する支援			・季節労働者の失業期間中の就労対策として、道路側溝、明渠排水路等の雑木処理作業を実施	B	(成果) ・季節労働者の就労対策を実施 雇用者数 30名 作業日数 9日間 (課題)	町民課

					・建設業従事者の通年雇用化には結びついていない。
--	--	--	--	--	--------------------------

◇商工業の活力向上

KPI

空き店舗等における新規開業や新たな利用	5件	達成度(30年度末)	5件 / 100.0%
新規商品開発件数(H26 4件)	延べ20件	達成度(30年度末)	10件 / 50.0%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇商工業者に対する資金支援			・上士幌町中小企業融資条例に基づき、資金支援を行った。	A	(成果) ・利用実績 13件、91,930千円の融資。 (運転資金5件、設備投資8件) ・前年実績(21件、91,330千円)比較で、融資額は前年並み。 ・きめ細やかな資金融資対応のため、小口融資制度化の条例改正を3月に行い平成31年4月から施行した。 (課題) ・商工業者の経営の安定化を継続的に支援していく必要がある。	商工観光課
◇商店街活性化支援			・商店街の活性化を図るため「商店街賑わい事業」へ支援した。	A	(成果) ・中元売り出し事業(10%還元)実績 売出期間:7月23日~8月6日 (8/3予定数終了) 売上総額:51,219千円 (目標額 50,000千円) 交換者数:1,092人 ・歳末売り出し事業(10%還元)実績 売出期間:11月19日~12月22日 (12/19予定数終了) 売上総額:150,363千円 (目標額 100,000千円) 交換者数:1,691人 ・新春大売出し事業(抽選会)実績 売出期間:平成30年12月26日~ 平成31年1月27日 売上総額:33,042千円 ・防災セット販売事業 予約期間 11月12日~30日	商工観光課

					<p>引換期間 12月14日～22日</p> <p>販売セット 5千円 362個 2.5千円 184個</p> <p>購入者 454名(目標500名)</p> <p>・新春運だめしサイコロゲーム事業実績 開催日:平成30年1月2日 開催内容:ココアの無料提供、サイコロゲーム等</p> <p>(課題)</p> <p>・「商店街賑わい事業」の内容の工夫を図りつつ、継続的に支援する必要がある。</p>	
◇起業支援及び空き店舗対策の推進			<p>・起業希望者に対して、創業支援促進事業や町中小企業融資制度により支援を行った。</p> <p>・ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングにより「起業家支援プロジェクト」を開始し、支援いただいた寄附者に、オープンするお店の食事券のインセンティブをつけ、起業を支援した。</p>	A	<p>(成果)</p> <p>・創業支援促進事業による支援は、2件の申請があり、開業している。(①リサイクル店、②そば屋)</p> <p>・クラウドファンディング型ふるさと納税により起業家支援プロジェクトに242件、3,145千円の寄附が寄せられた。</p> <p>(課題)</p> <p>・更に商工会と連携し、事業承継や新規起業、異業種参入などを促進し、空き店舗対策を進める必要がある。</p> <p>・起業家支援プロジェクトの周知、支援対象者の発掘を行う必要がある。</p>	企画財政課 商工観光課
◇商工業者の後継者育成・雇用確保			<p>・創業支援促進事業や町中小企業融資制度により資金支援を実施し雇用確保を図った。</p> <p>・H29に商工会が実施した事業者アンケートをもとに、商店等の事業承継や空き店舗対策などの検討をし、商店街振興のための計画を支援した。</p> <p>(今後の対応)</p> <p>商工会と連携し商店街振興計画に基づき、事業承継など新たな取り組みを実施。</p>	A	<p>(成果)</p> <p>・創業支援促進事業による支援は、2件の事業が完了し、5名の雇用拡大に繋がっている。</p> <p>・商店街振興計画策定は、商工会が主体となって策定委員会を設置(町参画)。平成31年2月に計画策定が完了。</p> <p>(課題)</p> <p>・商工会と連携して広報等により制度の周知を行う必要がある。</p> <p>・町民生活を守るため、計画に基づいて新たな施策の検討が必要となっている。</p>	商工観光課
◇地域資源を活用した商品開発			<p>・「道の駅」「ナイトテラス」等で販売する商品、サービスの開発を行った。</p> <p>・地域資源を活用した新商品の開発を促す農林商工等連携・ビジネス創出促進事業により、事業者への支援を</p>	B	<p>(成果)</p> <p>・道の駅等で販売する新商品開発は実行委員会を設立。7回会議を行い、10件の素案を提案。</p>	商工観光課

			行った。  (今後の対応) 商品開発実行委員会により、継続して取り組みを進める。		・農林商工等連携・ビジネス創出促進事業による支援は、2件の申請があり商品開発や調査が行われている。(ソフト・ハード事業各1件) (課題) ・新たに地域資源を活用した新商品の開発を行う人や事業者を発掘していく必要がある。 ・道の駅等のオープンに向けて、年間10商品を目標に、多様な商品を開発していくことが必要となっている。
--	--	--	---	--	---

◇観光産業の活力向上

KPI

観光入込数：H26年360千人	415千人(15%増)	達成度(30年度末)	未集計 / 未集計
-----------------	-------------	------------	-----------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇インターネット不感地帯の解消促進 ・インバウンド等観光客誘客に求められる高度情報網整備			・「道の駅」「ナイトテラス」でのWi-Fi環境の整備を行った。 ・光回線整備に関わる新たな補助事業「高度無線環境整備推進事業」の公募申請を行った。 ・既存FWA(無線通信網)の回線増強工事を行った。  今後の対応 ・上記補助金交付決定後に光回線敷設工事を実施する。 ・三国峠休憩所が携帯電話エリアとなったことから、簡易的なWi-Fi環境を整える。また、ぬかびら源泉郷の温泉公園もWi-Fi環境を整える。	A	(成果) ・ナイトテラスは、Wi-Fi環境を備えておりオープン時に運用開始する。道の駅は実施設計に反映させ整備予定。 ・農村地域における光回線敷設に向けた調査設計業務が完了した。また、総務省の新たな補助事業「高度無線環境整備推進事業(補助率1/2)」が示され、当該事業の公募申請を行った。内示～交付決定は次年度となる。 ・既存FWA(無線通信網)の回線増強工事が完了。 ・ぬかびら源泉郷以北の携帯電話不感地帯については、一部キャリアにおいて解消し、次年度には他キャリアでも解消する見込み。	商工観光課 企画財政課
◇インバウンドを含む観光客誘致 ・外国人観光客の受け入れ環境整備、効果的な観光プロモーションの展開、情報発信の強化 ・滞在・体験型観光プログラムの開発、担い手となる人材の育成 ・老朽化した観光施設等のユニバーサルデザインに配慮した再整備	観光客入り込み数 360千人(H26)→ 415千人(H31) 15%増	平成29年度末 439.0千人 前年度比 122.3% (平成28年度末) 359.1千人 ※平成30年上期 258.9千人	・インバウンドを含む観光客誘致(プロモーション、体験観光)。 ・本町の観光を、戦略的に推進するため「上士幌町観光基本計画」を策定。 ・上士幌町観光地域商社が観光庁「日本版DMO候補法人」の登録を目指す。	A	(成果) ・北十勝4町が連携して、バンコク日本博(タイ)に参加しプロモーション活動を実施。 ・インバウンド向け観光パンフレット(3言語)を新規製作し、観光拠点への配置、イベントやプロモーション活動において	商工観光課

		前年同期比 90.0%	(今後の対応) 日本版 DMO 候補法人登録を進める。	<p>配布している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)karch は、平成 30 年 7 月に旅行代理業登録を完了し、インバウンド滞在プラン検討のため、モニターツアーを 3 回実施。</li> <li>・体験観光としては、9 月～10 月に「上士幌体験マルシェ」を実施 (10 事業 298 人参加)。また、5 月よりレンタサイクル実施 (利用者 65 人)。</li> <li>・観光基本計画策定に向け策定委員会 (3 回) 及びワーキンググループ (5 回) により検討を進め、計画策定を完了。</li> <li>・(株)karch の日本版 DMO 候補法人登録について、観光基本計画策定進捗と申請受付時期の関係により次年度の登録申請となった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光基本計画の実践・推進が必要となっている。</li> </ul>
--	--	-------------	--------------------------------	---

◇企業誘致

KPI

新規雇用者数	30人増加	達成度(30年度末)	27人 / 90.0%
--------	-------	------------	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇企業誘致対策事業	新規雇用者数 30人	27人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H28 年度に製造工場の稼働を開始した十勝製菓(株)、サテライトオフィスを誘致した(株)トラストバンクに対し、無料職業紹介所と連携し、人材確保への支援を行った。</li> <li>・十勝製菓(株)の開発する新商品に対し、ふるさと納税推進事業と連携して、販路拡大に努めた。</li> <li>・H30 年度補正予算「地方創生拠点整備交付金」に「上士幌シェアオフィス整備計画」が採択となった。(整備はH31 年度)</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29 年度に設立した「(株)生涯活躍のまち かみしほろ」において職員 3 名が雇用された。</li> <li>・H30 年度に設立した「上士幌町観光地域商社(株)karch」には、2 名が雇用 (出資会社より派遣) された。</li> <li>・8/14 付で株式会社WH○○D 設立</li> <li>・従業員 4 名 (うち役員 2 名)</li> <li>・「起業家支援プロジェクト」の対象第 1 号となった、(株)WH○○D は飲食店経営において上士幌町の特産物や資源を活用する他、今後は首都圏や全国に発信する意向のため、地元の事業者や各団体との連携を支援する。</li> </ul>	企画財政課



◇地産品の消費拡大

KPI

特産品のレシピ開発	30品	達成度(30年度末)	29品 / 96.7%
-----------	-----	------------	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇ふるさと納税特産品消費拡大プロモーション	レシピ開発 30品	29品	・引き続き、新たなレシピ開発を進める。	A	(成果) ・レシピは増えており、目標達成に向け、今後も料理レシピのコミュニティウェブサイトのコックパットを活用しながら、レシピ開発を進めていく。	企画財政課

## 2 子育て・教育の充実したまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年度末)
合計特殊出生率	1.61	1.90	H25～29の数値に基づきH31公表予定
学力・体力・体験		北海道トップレベル	

### ◇子育て世帯における経済的支援の一体的実施

#### KPI

子育てしやすいと感じる人の割合47.1%（H27アンケート調査）	増加	達成度(30年度末) 「第2期上士幌町子ども・子育て支援事業計画」策定に係るニーズ調査結果より（平成30年度実施 前回調査は平成25年度実施） ・就学前児童の保護者 ①子育てしやすいと感じる 32.3%（前回14.8%） ②どちらかといえば、子育てしやすいと感じる 49.2%（前回48.1%） ①+② 81.5%（前回62.9%） 前回対比130% ・小学生児童の保護者 ①子育てしやすいと感じる 31.7%（前回10.5%） ②どちらかといえば、子育てしやすいと感じる 44.4%（前回52.6%） ①+② 76.1%（前回63.1%） 前回対比121%
認定こども園における待機人数（H27ゼロ）	維持	達成度(30年度末) 維持

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇高校生世代までの医療費の無料化			・子ども医療費助成事業受給者数 686名 （うち高校生91名） ・子ども医療費助成額 18,226千円 （うち高校生1,776千円）	A	（進捗状況） ・子育て世帯への経済支援により子育ての不安解消につながった。	保健福祉課
◇教育に係る保護者負担の軽減 ○幼児に係る保育・教育費の保護者負担の軽減 ・2km以上の遠距離通園者への補助  ○児童・生徒に係る教育費の保護者負担の軽減 ・就学援助 ・補助教材補助	保育料無料化	保育料無料化実施	・認定こども園の保育料無料化の実施。 ・認定こども園までの往復の距離×2回×20円×通園日数分の補助を実施 交付人数 29名  ・就学援助（学用品費・給食費・新入学児童生徒学用品費・PTA会費・体育実技費・修学旅行費等）の実施 交付人数 小学生46名 中学生24名 ・就学援助（新入学児童生徒学用品費）の新入学児童生徒への入学前年交付 申請に基づき12月支給 交付人数 小学生5名 中学生8名 ・補助教材補助 小中学校児童生徒一人あたり2,000円分を各学校に配当 小学生245名 中学校132名	A	（成果） ・児童数の増加に対応するため、山開センター和室を改修して保育室分室とし、保育環境の改善を図った。（H30.4月）  （成果） ・平成30年度は新たに、小中学校新入学生に対して入学後に支給していた就学援助（新入学児童生徒学用品費）の入学前年支給や、小中学生の修学旅行経費の約1/2助成により、保護者の負担軽減を図った。	幼児教育課  教育推進課

	修学旅行経費の助成	修学旅行経費の助成 実施	・修学旅行経費の約1/2を助成 小学生 11,000円×42名 中学生 33,000円×36名			
◇子育て支援・少子化対策建設助成金交付事業			・新築住宅 9件 15,000千円 対象子ども 15名 ・中古住宅 1件 1,000千円 対象子ども 2名	B	(成果) ・新築住宅については昨年度より増加しているが、中古住宅については減少している。	建設課

◇出産や子育てにおける安心の確保

KPI

育児短時間勤務を導入している事業所数	増加	達成度(30年度末)
--------------------	----	------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
育児短時間勤務の推進			・(株)生涯活躍のまち かみしほろと合同での、登録事業所訪問の際、育児短時間勤務等の制度PRと、情報収集のためアンケート調査を実施	B	(成果) ・登録事業所34社を訪問。子育て等の制度はないが「休みやすい環境づくりや、職場内の協力体制をとっている」と回答している事業所も多い。	町民課
地域で育む子育てサロンの開設			・認定こども園内に設置している「子育て支援センター」において、次の事業を実施 1. 親と子が安心して過ごせる居場所として、子育てに向き合うゆとりと自信を高める場の提供 <すくすく広場> 毎週水曜日 対象 0～2歳誕生日までの子どもと保護者・妊婦 <なかよし広場> 毎週月・金曜日 対象 0歳～就学前の子どもと保護者 2. 親子で取り組める製作や音楽リズム、外遊び等の提供 <なかよしチャレンジ> 月1回 第2金曜日 対象 0歳～就学前の子どもと保護者 3. 妊婦同士や地域との交流の場・機会の提供により母親の孤立を防ぎ、出産後の育児不安の解消を図る <マミーズ広場> 毎月第1木曜日・第3金曜日 対象 妊婦 4. 同月齢の子どもを持つ母親同士や妊婦同士の交流、子育て相談や情報提供などの機会の提供により孤立を防ぎ、育児負担の軽減を図る <ベビーズ広場> 毎週木曜日 対象 0～1歳誕生日までの親子・妊婦	B	(成果) ・保育料無料化に伴い、認定こども園に入園する児童が増加し、子育て支援センター利用者が減少傾向にあるが、遊びの広場の時間延長により、利用しやすいような事業設定に変更している。 ・平成30年度施設利用実績(延べ人数) 大人 1,113名(昨年同期 1,141名) 子ども 1,369名(昨年同期 1,476名) 計 2,482名(昨年同期 2,617名) (課題) ・認定こども園・保健師・子ども発達支援センターが連携を図り、要支援の児童や保護者への継続した支援を充実させていく必要がある。そのため、認定こども園と子育て支援センターや各小中学校との連絡・調整を担う幼児教育コーディネーターなど、職員の配置が求められる。 ・<ちいさな広場>については参加者がいないこともある。 ・子育て支援センターの魅力化と利用促	幼児教育課

			<p>5. 集団での利用が苦手な親子を対象に、個人または少人数で利用できる場の提供      &lt;ちいさな広場&gt; 毎週火・木曜日      対象 0歳～就学前までの子どもと保護者</p> <p>6. 育児サークルの場に職員が出向き、育児相談や遊びの提供をして、子育てを通した仲間作りの応援をする      &lt;子育てサークル支援&gt; 月1回 第2火曜日</p> <p>7. 来所時及び電話により子育てに関する様々相談に対し、育児不安の解消を図る      &lt;子育て相談&gt; 毎週月～金曜日</p> <p>8. あそびの広場に認定こども園栄養士が出向き、子どもの食事に関する不安・疑問を軽減する      &lt;栄養相談・栄養講話&gt;      栄養相談2回 ・栄養講話1回</p> <p>9. 認定こども園の給食やおやつを試食により、乳幼児期に適した食事やおやつの味・量などの理解を深める      &lt;ほろんランチ&gt; 年3回      &lt;ほろんおやつ&gt; 年2回</p> <p>10. 子育てに関する知識を学び、育児不安の軽減を図る      子育て講演の開催      &lt;子育て講演会&gt; 2回実施      &lt;子育て講座&gt; 1回実施</p> <p>11. 未就学年齢の子どもを持つ親子に、認定こども園の雰囲気やあそび、生活などの体験をしてもらう      &lt;認定こども園開放日&gt;      年11回</p> <p>12. 育児疲れの解消、急病や就労形態の多様化などに伴う一時的な保育に対する需要に対応する為、一時的な保育を実施することにより児童の福祉の増進を図る      &lt;一時保育&gt;月～金曜日      対象 1歳～就学前の子ども</p> <p>13. 少子化・核家族化が進む中、仕事と育児の両立の為、地域において会員同士が育児に関する相互援助活動を行う事を支援する      ・安心して子育てができる環境づくり及び児童福祉の向上を図る      &lt;子育てサポート事業&gt;      会員の登録制（依頼会員・協力会員・両方会員）      料金 30分300円（町より半額の助成）</p>	<p>進を図るため、認定こども園の外国語指導助手と連携して、利用者に外国語や国際交流活動に触れる機会を検討する必要がある。</p>	
--	--	--	--	---	--

病児・病後児保育事業の検討			<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児・病後児保育を実施する管内の保育園、小児科医院の視察等を実施</li> <li>・町内医療関係者と連携し、管内で病児・病後児保育実施箇所の視察、調査を実施し、具体的な検討を進める。</li> </ul>	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内の病児・病後児実施施設の概要を調査済み。</li> <li>・帯広市内・音更・士幌町内の病児・病後児保育園を視察、調査(課題)</li> <li>・更に調査を実施し、本町での実施に向け、具体的な検討を進めていく。</li> </ul>	幼児教育課
---------------	--	--	---	---	---	-------

◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化

KPI

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録(小学5年・中学2年実施)	北海道トップレベル	達成度(30年度末)	<table border="1"> <tr> <td colspan="5">全国平均より上位の種目数</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小5男</td> <td>小5女</td> <td>中2男</td> <td>中2女</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>2/8</td> <td>1/8</td> <td>1/8</td> <td>1/8</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>3/8</td> <td>4/8</td> <td>2/8</td> <td>3/8</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>4/8</td> <td>8/8</td> <td>4/8</td> <td>3/8</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>2/8</td> <td>2/8</td> <td>3/8</td> <td>1/8</td> </tr> </table>	全国平均より上位の種目数						小5男	小5女	中2男	中2女	27年度	2/8	1/8	1/8	1/8	28年度	3/8	4/8	2/8	3/8	29年度	4/8	8/8	4/8	3/8	30年度	2/8	2/8	3/8	1/8
全国平均より上位の種目数																																	
	小5男	小5女	中2男	中2女																													
27年度	2/8	1/8	1/8	1/8																													
28年度	3/8	4/8	2/8	3/8																													
29年度	4/8	8/8	4/8	3/8																													
30年度	2/8	2/8	3/8	1/8																													
全国学力・学習状況調査の平均正答率	北海道トップレベル	達成度(30年度末)	<table border="1"> <tr> <td colspan="4">全国平均より上位の領域数</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小6</td> <td>中3</td> <td>教科</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>0/14</td> <td>1/14</td> <td>国語・算数(数学)</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>10/15</td> <td>4/15</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>1/15</td> <td>3/16</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>6/19</td> <td>0/20</td> <td>国語・算数(数学)・理科</td> </tr> </table>	全国平均より上位の領域数					小6	中3	教科	27年度	0/14	1/14	国語・算数(数学)	28年度	10/15	4/15	〃	29年度	1/15	3/16	〃	30年度	6/19	0/20	国語・算数(数学)・理科						
全国平均より上位の領域数																																	
	小6	中3	教科																														
27年度	0/14	1/14	国語・算数(数学)																														
28年度	10/15	4/15	〃																														
29年度	1/15	3/16	〃																														
30年度	6/19	0/20	国語・算数(数学)・理科																														
地域資源を生かした体験活動の推進	北海道トップレベル	達成度(30年度末)																															
地元からの上高進学率 38%(H23~27平均)	50%以上	達成度(30年度末)	26% / 52% (平成31年度入学者)																														

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
<p>◇学力・体力・体験の北海道トップレベルを実現</p> <p>○上士幌町子ども教育ビジョンの具現化 ～【「かみしほろ学園構想」(仮称)の策定】</p> <p>○幼児から高校まで一貫性のある教育プログラムの推進</p> <p>・共通教材の開発、導入</p>	<p>○全国学力・学習状況調査より(小学6年・中学3年実施)</p> <p>・将来の夢や目標を持っている児童・生徒</p> <p>小学校 89% 中学校 68% (H22~26平均) →100%</p>	18頁《別記》に記載	<p>かみしほろ学園本部に3部会、1室を設け推進している。</p> <p>・かみしほろ学園推進本部の取組</p> <p>総会、役員会(8回)、かみしほろ学園推進本部だよりの発行(11回)、吹奏楽器の購入・修繕、教育講演会の開催(2/7)等の実施。</p> <p>・連携教育部の取組</p>	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の機能強化を行い、かみしほろ学園を推進した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な教育、iBノート、サポートブック「アーチ」等の取り組みを軸に、一層、幼保小中高連携を進める。</li> </ul>	<p>教育推進課</p> <p>幼児教育課</p> <p>生涯学習課</p>

<p>・地域総ぐるみのキャリア教育（一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育てていく教育）支援</p>	<p>(H31)          ・授業以外の勉強時間1時間以上の児童生徒の割合          小学生 平日 43% 土日 51% (H22~26 平均) → 80%以上 (H31)          中学生 平日 57% 土日 59% (H22~26 平均) → 90%以上 (H31)          ・朝食を毎日食べている児童生徒の割合          小学生 99% 中学生 93% (H23~26 平均) → 100% 維持継続          ・全国学力・学習状況調査の平均正答率→北海道トップレベル</p>		<p>①漢字検定、英語検定、数学検定の実施（英検3回、漢検3回、数検2回）。          ②部活動交流          中学校及び上士幌高校の吹奏楽部への外部講師招聘（8回）          少年団、中学校の卓球部への、外部講師招聘（2回）          奏楽部や卓球部などの活動で、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士が連携。          ・研修開発部会の取組          ①自己管理手帳「iBノート」の導入と活用（認定こども園、町内小中学校、上高へ4月配付）。          ③子育てサポートブック「アーチ」の作成と説明・配付（認定こども園180名、上小新入生に配付の他、母子手帳配付に合わせて配付）。          ④芸術鑑賞会の実施（小学校8/31）。          ・教育研究・複式教育部会の取組          ①家庭学習の手引き発行（4月）          ・その他          ①秋田県東成瀬村教育視察の実施（6/24~26 8名参加）。</p>		<p>(成果)          ・各学校運営協議会において熟議を行い、コミュニティ・スクール委員会で情報共有やCSに関する理解促進が図られた。</p>
<p>○地域とともにある学校づくり「コミュニティ・スクール制度」の導入          ・平成28年度から導入</p>			<p>・コミュニティ・スクール委員会・研修会の開催（各3回開催）。          ・こども園、各小中学校の学校運営協議会の開催（こども園6回、糠小5回、上小6回、上中5回開催）。          ・CSコーディネーター2名の配置。          上士幌小学校（週2日）、上士幌中学校（週1日）、上士幌高校（週3回）に駐在し、CSレター（カレンダーを含む）の作成、学校と地域の連絡調整等を行っている。          ・CSレター「きずな」の発行（12回）。          ・「ゆめ育」応援団の募集と登録（現登録数 企業34、団体5、個人81）          ・各学校運営協議会活動の実施。          上小、上中におけるあいさつ運動等を実施。</p>		<p>(課題)          ・学校、地域、CSコーディネーターの連携をさらに進め、各学校運営協議会及び、「ゆめ育応援団」の活性化を図るとともに、積極的に情報発信を行う必要がある。          また、コミュニティ・スクールの深化を図るため、各学校運営協議会の横断的な連携やかみしほろ学園推進本部への地域協働部会の新設を検討する必要がある。</p>
<p>○課外活動の充実          ・外部講師等の積極的な課外活動での活用          ・少年団から高校までの課外活動の環境整備と指導者の</p>			<p>・かみしほろ学園の推進、「連携教育部会の取組・部活動交流」参照。          ・子どもの夢・未来応援事業の実施</p>		<p>(成果)          ・一部課外活動へ外部講師を招聘するとともに、中学校と高校、少年団と中学校</p>

<p>確保</p> <p>○確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学級教諭の配置</li> </ul> <p>・ティームティーチングによる習熟度別指導の実施</p> <p>・小学校への専科教諭配置の検討</p> <p>・土曜学習の実施</p> <p>・放課後対策の充実</p> <p>・外国語活動教育の推進</p>			<p>①「野村忠宏氏講演会・柔道教室」(3/16)</p> <p>②「K I T E氏講演会・ワークショップ」(3/26)</p> <p>・上士幌小学校2年・5年を2学級に分け、小1プロブレムの解消と児童一人ひとりと向き合える35人以下学級の実施による教育活動を推進。(少人数学級教諭2名配置)</p> <p>・上士幌小学校3年生・4年生の学級に学校教育推進支援教員を各1人配置し、習熟度別指導ができるような体制整備を推進。(T T 2名配置)</p> <p>・体育と音楽のT Tを配置し、体力向上や芸術分野における豊かな感性の育成と合わせ、各教員が子ども達一人一人と向き合える体制整備を推進。(T T 2名配置)</p> <p>・一部業務委託を行い実施。 ※イングリッシュゲーム、サイエンス、郷土史学習</p> <p>・各小学校で「ゆめ育」応援団等と連携・協働して「放課後ほろんクラブ」を実施(上小16回、糠小10回)。</p> <p>・土曜学習(イングリッシュゲーム)を通じた英語学習の実施(3回)。</p>	<p>の指導者同士の連携を図った。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動における、外部講師の活用をさらに進めるとともに、少年団、中学校、高校の連携を進める必要がある。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学級教諭や学校教育推進支援教員・専科教諭(T T)の配置による体制の整備により、きめ細かな学習・生活の指導が図られ、いじめ・不登校の問題の抑制にも繋がっている。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習や体験を通し、子どもたちの土曜日の生活の充実が図られた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他機関、町他課部局等で同じ土曜日に実施されている体験事業等を精査し、協働や統合実施等を検討するほか、学習テーマについても、今日的課題を取り上げる等プログラムの多様化を図る必要がある。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な分野の日常的には体験が困難な内容のプログラムを提供し、子どもたちの放課後の過ごし方の充実が図られた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園に併設されている「子育て</li> </ul>	
--	--	--	--	---	--

<p>・読書の推進</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園に外国語指導助手が常駐。外国語に親しむとともにコミュニケーション能力の向上に努めた。</li> <li>・小中高等学校に外国語指導助手を派遣。上士幌小学校に週3日常駐し、外国語活動のみではなく、その他の授業や放課後活動にも一緒に参加することにより、コミュニケーション能力の向上に努めた。</li> </ul>	<p>て支援センター」や「地域サロン」の利用者にも外国語や国際交流活動に触れる機会を増やすため、国際交流員の配置が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校への外国語指導助手の常駐により、子どもたちのコミュニケーション能力の向上が図られた。</li> </ul>
<p>○体力の向上 ・スポーツ環境の整備</p>	<p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録 (小学5年・中学2年実施) →北海道トップレベル</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書コーディネーターを町内小中学校に駐在(上小週2日、上中週1日)させ、司書教諭等と連携し計画的に学校図書室の整備・充実に努めた。</li> <li>・ブックキャラバン等を実施(上小1回、上中1回)しながら、認定こども園、小中学校における図書の購入。</li> <li>・中学校におけるゆめ育応援団による図書整備(毎週水・木曜実施)。</li> <li>・図書館、お話会「カッコウ」、ゆめ育応援団等による読み聞かせの実施(適宜実施)。</li> <li>・図書館事業(巡回文庫、ブックスタート、図書館講演会等)の実施(適宜実施)。</li> <li>・子どもの読書推進の啓発のための講演会等の実施。原ゆたか先生講演会等を実施(9回)。</li> <li>・読書アンケートの実施(対象:小学2・5・年生、中学2年生とその保護者、認定こども園保護者)</li> </ul> <p>《その他学力向上に向けた対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査により子ども達の学力が二極化傾向にある。公教育のサポートとして生徒個々の学力に応じた個別指導の対策を進めていくために、「公営塾」による無料の夏期講習と冬期講習を実施。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設の整備。 テニスコートの土の入替の実施。</li> <li>・マラソン大会、ミニバレー大会、スケート大会など各種スポーツ大会の実施。</li> <li>・水泳教室、スケート教室、スキー教室など各種スポーツ教室の実施。</li> <li>・小中学生にぬかびら源泉郷スキー場のシーズンパスポートを交付し、スキー普及対策を図った。</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書コーディネーターを中心に、学校、地域、図書館と連携しながら子どもの読書推進が図られた。</li> <li>・読書アンケートの結果、「本を読むのが好きですか」の問いに対して「好き」と回答した子どもの割合が増加した。また、「どれくらい本を読みますか」の問いに対して「読まない」「あまり読まない」と回答した子どもの割合が減少した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も「上士幌町第1期子どもの読書推進計画」に基づき、地域全体で、子どもの読書推進を図る必要がある。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公営塾 上士幌中学校生徒受講率 夏期 66% 冬期 61%</li> <li>・学習意欲の向上や家庭学習の促進、基礎学力の定着が図られてきている。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活用しやすい施設づくりを目指し、既存施設の整備を進めるとともに、各種スポーツ大会や教室を実施し、子どもたちの体力づくりを実施した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備は実施しているが、老朽化している施設がまだ多くあるため、計画的に進める必要がある。</li> <li>・前年度を振り返り、多くの子どもたち</li> </ul>



<p>・少年団活動、部活動の活性化</p> <p>○地域資源を生かした体験活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土を学ぶ体験、自然環境を生かした体験、基幹産業に触れ合う体験</li> <li>・体験活動の単位化を検討</li> </ul>	<p>○上士幌まるかじり体験学校（仮称）の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を生かした体験活動の体系化</li> <li>・本町の自然環境を活かした体験活動を開発</li> </ul>	<p>地域資源を活かした特色ある体験活動を実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年団体験会の実施（4/22、参加者：33名）。</li> <li>・スポーツ振興助成の実施（31件）。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かみっ子ふるさと体感塾（4回）を実施し、体験の効果を客観的に捉えるIKR（生きる力）調査を行った。</li> <li>・放課後対策事業における体験プログラム等の実施。※「放課後対策の充実」参照</li> <li>・生涯学習ラーの事業内容の充実（チーム制、商店街で体験等）を図り、地域資源を活かす体験プログラムを実施（9/22、17チーム55名参加）。</li> <li>・自然環境教育推進事業としてNPOひがし大雪自然ガイドセンターに委託し、小中学校において体験学習の実施（32回）。</li> <li>・上士幌高校において地域資源を生かした「上士幌学」を実施し、上士幌町及び十勝の自然、郷土史、産業、食などについて学んだ（受講生18名、90時間実施）。</li> <li>・ボランティアセミナーを開催（7/30）し、中高生ボランティアの参加を進めた。</li> </ul>	<p>が参加してもらうための工夫は実施しているが、参加者の増加に結びついていないところもあり、今後とも参加者の増加に向けた取り組みが必要である。</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少年団体験会を通じて少年団への加入促進が図られた。</li> <li>・全道・全国大会等への出場者に対し、参加に係る経費の一部を助成して、参加者の負担軽減と優秀な成績を讃えた。</li> </ul> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IKR（生きる力）調査の結果から、昨年度に比べ向上の幅は小さいが、事前調査の数値が全ての項目で向上し、全体指標である「生きる力」について向上するなど体験の効果が表れている。 </li></ul>	
<p>○子ども発達支援センター事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進</li> <li>・途切れのない支援体制確立</li> </ul>	<p>○乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもの軽減につなげる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業の実施内容</li> <li>①発達相談件数 144件</li> <li>②通所支援件数 995件</li> <li>③母子保健協力件数 7件</li> <li>④関係機関（園・各学校含）との連携（教育相談含む）126回</li> <li>⑤通所支援事業親子対象事業 ヒップホップ 1回</li> <li>⑥地域開放（新事業） <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生以上18歳以下対象のスキルトレーニング・運動・音楽 36回 146名</li> <li>・幼児対象の体を使った遊び場提供 9回 25名</li> </ul> </li> <li>⑦相談支援事業 68件</li> </ul>	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援センター訪問や1,6歳児・3歳児健診への参加により、早い段階から保護者・関係者との連携がスムーズに図られている。</li> <li>・認定こども園への定期的な訪問やカンファレンスなどにより、スムーズな保護者との連携と支援が図られている。</li> <li>・必要に応じ、小学校・中学校・高校との保護者を交えた教育相談が図られている。</li> <li>・各事業を通して各機関（福祉関係者を</li> </ul>	

			⑧研修会の実施 ・関係者向け研修会 3回 （うち2回がかみしほろ学園との共催） ・子ども向け出前授業 6回 ・子ども、保護者向け研修会 2回 ・町民、保護者向け研修会 1回 ⑨上士幌高校通級指導への支援 ⑩委託事業 ・心理検査や作業療法士による検査・指導 ・北斗病院（作業療法士・言語聴覚士）による指導		含)との連携がスムーズに図られるようになってきている。 (課題) ・通所支援事業所を終了した児童生徒をサポートする取組として、「保育所等訪問支援事業」の実施を検討していく必要がある。	
◇魅力ある上士幌高等学校の振興支援 ・部活動の支援による活性化 ・キャリア教育（一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育てていく教育）の推進 ・学力向上、進学対策の推進 ・遠距離通学者や通学困難者の民間下宿、又は寮整備の検討	・地元からの上士幌高校進学率 38%（H23～27 平均）→50%以上 ・定員 80 人の入学生確保	・地元からの進学率 平成 28 年 27% 平成 29 年 31% 平成 30 年 15% 平成 31 年 26% ・入学者数 平成 28 年 60 名 平成 29 年 80 名 平成 30 年 50 名 平成 31 年 43 名	・平成 29 年度からの振興策の主な変更・追加点 ①通学全額補助を定額補助へ減額（H30 入学者より） ②各種検定補助対象者を合格者のみから全員に拡大 ③講習会（公営塾）の対象者を全員に拡大 ④進学受講者の模擬試験受験料・教材費全額補助 ⑤熱気球球皮更新 ・平成 31 年度振興策の見直し内容決定 ・近隣市町村への中学校訪問による働きかけの実施 15 校×3 回（7 月・9 月・1 月） ・上士幌学やコミュニクスール（10 月指定）等の支援のために、地域おこし協力隊を週 3 日派遣 ・通級支援のために、子ども発達支援センター職員を随時派遣	B	(成果) ・更に魅力ある選ばれる高校としていくため、平成 31 年度振興策の見直しを決定し、地元はもとより、士幌町・音更町・帯広市の各中学校訪問を実施し、浸透が図られた。 (課題) ・上高の充実した学校生活の良さや進路決定実績の PR 等の情報発信に努めたが、管内中学校の卒業生徒数の減少傾向と進路の多様化に伴い、入学者増には結びついていない。 ・コミュニクスールの活性化に向けて、学校運営への地域人材活用の支援に努めていく必要がある。	教育推進課
◇幼児から高齢者までが互いに学び育つ生涯学習センターを活用した世代間交流の促進（H28）	施設年間利用者数 44,500 人（H26） （学童保育所・発達支援センター含）→84,500 人（H29） H30 以降各年 1,800 人増	施設年間入館者数 ・平成 29 年度（6 月～） 185,382 人 ・平成 30 年度 390,410 人	・新生涯学習センター「わか」におけるサークル活動や会議、講演会等の利用が進んだ。また、カフェくれよんはメニューの改変等を行い営業した。 ・予約のない会議室等を自習等の場所として開放した。 ・「わか」屋内外で利用できる遊具の貸出しを行った。 ・将棋クラブや町民有志による「みんなの広場」の開催等により異世代交流が図られた。 ・「わか」西側に 63 台分の新たな駐車場を整備した。	A	(成果) ・サークル活動や会議、講演会等の利用やカフェくれよんの営業等により様々な世代や立場の方々の間の交流が図られた。 ・利用しやすい施設づくりが進んだ。 (課題) ・暑さ対策等利用対象者の利便性を考慮した施設環境の整備を進める必要がある。 ・カフェくれよんの運営を通し、障害者やその自立支援に対する理解が進むよう利用の促進を図る必要がある。また、さらに、障害者を含め様々な立場や世代の方々の間の交流を図る必要がある。	生涯学習課

《別記》 事業目標の進捗状況 (全国学力・学習状況調査 小学6年・中学3年実施より)

事業目標	平成27年度調査結果	平成28年度調査結果	平成29年度調査結果	平成30年度調査結果	平成31年度目標
・将来の夢や目標を持っている児童・生徒	小学生 94.8% 中学生 71.8%	小学生 89.1% 中学生 71.4%	小学生 92.3% 中学生 61.7%	小学生 72.9% 中学生 76.3%	小学校 100% 中学校 100%
・授業以外の勉強時間1時間以上の児童生徒の割合	小学生 平日 52.7% 土日 73.7% 中学生 平日 48.7% 土日 53.8%	小学生 平日 45.4% 土日 49.0% 中学生 平日 35.6% 土日 40.4%	小学生 平日 38.4% 土日 36.0% 中学生 平日 38.2% 土日 49.9%	小学生 平日 41.7% 土日設問無 中学生 平日 42.1% 土日設問無	小学生 平日・土日共に80%以上 中学生 平日・土日共に80%以上 ※土日の勉強時間の設問は削除
・朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学生 97.4% 中学生 92.3%	小学生 92.8% 中学生 88.1%	小学生 97.5% 中学生 91.2%	小学生 95.9% 中学生 81.6%	小学生 100% 中学生 100%

◇子どもの健やかな成長支援

KPI

妊婦相談実施率	100%	達成度(30年度末)	100.0%			
赤ちゃん訪問実施率	100%	達成度(30年度末)	100.0%			
乳幼児健診受診率	100%	達成度(30年度末)	97.5%			
実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇妊婦相談 (H26 100%)	100%	100%	・全ての妊婦と面談を実施	A	(成果) ・全ての妊婦と面談し、必要な支援を実施することができた。今後も妊娠期から子育て支援を充実させるために妊婦面談を継続する。	保健福祉課
◇赤ちゃん訪問 (H26 100%)	100%	100%	・全ての赤ちゃんと保護者に対し家庭訪問を実施	A	(成果) ・全ての家庭に訪問し、必要な支援を実施することができた。訪問不可の場合でもその他の方法で状況把握することを継続する。	保健福祉課
◇乳幼児健診 (H26 98.6%)	100%	97.5%	・対象者全ての乳幼児健診を実施	A	(成果) ・1名を除き受診できた。児の体調不良や保護者の都合により未受診の場合、こども園や関係機関で情報連携しながら、状況把握している。	保健福祉課
◇子ども発達支援センター事業の充実 ・乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進 ・途切れのない支援体制確立	乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもの軽減につなげる		「◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化」の「○子ども発達支援センター事業の充実」と同内容のため、記載省略	B		教育推進課

◇命の尊さを確認し心豊かな成長と家庭形成に向けた支援

KPI

生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中学校での授業の実施率	100% (H26 100%)	達成度(30年度末)	100.0%
学童・思春期に対する心の健康講座実施率(中学校・高校・保護者)	100% (H25 高校生実施)	達成度(30年度末)	100.0%
20歳から39歳まで女性有配偶者率	増加	達成度(30年度末)	—

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇生教育事業 ・発達段階に応じた生教育の実施	生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中学校での授業の実施率 →100%(H26 100%)	100%	・認定子ども園1回、小学校2回、中学校2回の生教育授業を実施。 ・中学校と授業の評価をし、これを反映した内容に改善することができた。	A	(成果) ・生教育モデルにもとづき各年代に対して生教育支援チームの協力を得て授業を継続することができた。時代の変化とともに性に対する普及啓発内容が複雑化しており、専門的な視点を用いて指導内容を改善することが課題となっている。	保健福祉課
◇こころの健康づくり支援事業 ・学齢期・思春期に向けた心の健康づくりに関する知識の普及 ・関係機関と連携した相談支援体制の強化	学童・思春期に対する心の健康講座の実施率(中学校・高校・保護者) →100%(H25 高校生実施)	100%	・発達支援センターが小中高生に対して教育ジャーナリストを講師とした自殺予防に関する講座を11月に開催。 ・発達支援センターと連携し、子ども園、小中高の保護者を対象とした自殺ゲートキーパー研修を11月に開催。	A	(成果) ・発達支援センター等と連携し自殺予防という共通目的のもと講座を開催する他、乳幼児から高校生保護者へ広く周知をすることができた。今後も関係機関連携により普及啓発を充実させていく必要がある。	保健福祉課
◇家庭形成に向けた出会いの機会創出支援			・取組みの実施に応じて支援	B		企画財政課 商工観光課 農林課 農業委員会 事務局
◇子育てを通じた男女共同の推進支援			・育児の喜びを実感できることを目指し「マミーズプラザ(妊娠期・講座Ⅰ)」「カンガルー教室(親子ふれあい体験)」を実施。 ①「マミーズプラザ講座Ⅰ」年3回実施。参加人数 延12名(うち父親 延3名) ②「カンガルー教室」 年4回実施 参加人数 延21名(うち父親 延3名)  ※「◇出産や子育てにおける安心の確保」の実施事業「地域で育む子育てサロンの開設」に記載。	B	(成果) ・父母が育児の知識を得るのみでなく、参加者同士の交流の場にもなっており、教室の満足度は高い。父親については、仕事等の都合で参加できない場合もあるが、今後も個別に勧奨を行うなど、参加しやすい環境をつくる。	保健福祉課 幼児教育課

### 3 健康で安心して暮らせるまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年度末)
健康寿命の延伸（不健康な期間の短縮）	<p>【平均寿命－健康な期間の平均＝不健康な期間の平均】</p> <p>(H25) 男性 81.84 歳－80.52 歳＝1.32 歳</p> <p>(H25) 女性 86.88 歳－83.39 歳＝3.49 歳</p> <p>※厚生労働科学研究費補助金</p> <p>「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」のプログラムにより北海道が算出</p>	<p>男性 1.0 歳</p> <p>女性 3.0 歳</p>	<p>(H30.3 策定：北海道健康増進計画より)</p> <p>男性 79.12 歳－78.23 歳＝0.89 歳</p> <p>女性 86.36 歳－84.16 歳＝2.20 歳</p> <p>①要介護（要支援）認定者数（H28 年 1 月（暫定））</p> <p>②人口：平成 27 年国勢調査</p> <p>③死亡数：平成 23 年～27 年人口動態統計（厚労省）</p> <p>※目標値の不健康な期間は短縮したが、平均寿命は男女とも低下し、男性の健康な期間（健康寿命）が減少している。母数に対する死亡数等の影響が大きいと思われる。</p> <p>※国の示す健康寿命と算出方法が異なるほか、北海道が算出する市町村の健康寿命の公表時期が不明。</p>
要介護認定率	17%（H27 年 6 月現在）	19.0%（H32 年第 6 期介護保険事業計画値 20.16%）	18.9% / 100.5%

#### ◇健康管理の習慣化を促進

##### KPI

乳がん・子宮がん検診受診率	100%	達成度(30年度末)	子宮 30.7% / 乳 37.4% ※推定値
特定健診実施率	60%	達成度(30年度末)	55.0% / 91.7% ※H29 実績
肥満（BMI 25 以上）の人の割合	28%	達成度(30年度末)	33.4% / 80.7% ※H29 実績

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
<p>◇生活習慣病の発症・重症化予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健康未受診者への勧奨</li> <li>・健診結果説明会の充実</li> <li>・健診受診者へのスタンプポイント事業</li> <li>・食育に関する普及啓発促進</li> </ul>	<p>特定健康診査実施率→60% (H21～H25 平均 42.6%)</p> <p>特定保健指導実施率→65% (H21～H25 平均 59.6%)</p> <p>肥満(BMI25以上)の人の割合→28%(H25 29.3%)</p>	<p>H29 法定報告で実施率 55.0%</p> <p>H29 法定報告で実施率 55.6%</p> <p>H29 法定報告で肥満割合 33.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診及び 20～30 歳代の基本健診の無料化</li> <li>・地区担当による未受診勧奨訪問の充実</li> <li>・地区担当による健診結果説明や訪問指導の充実</li> <li>・特定健診委託先・協定病院の拡大</li> <li>・重症化予防のための 2 次検査継続</li> <li>・健康マイレージ事業の継続</li> <li>・栄養コラムや健診会場の栄養改善に関する情報提供の充実</li> <li>・スマートライフかみしほろの普及（ロゴマークの活用）</li> <li>・スマートライフ食生活（適度な食生活）推進（商工会との連携による野菜摂取の促進）</li> <li>・教育委員会との連携による運動推進</li> </ul>	B	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートライフかみしほろのロゴマークを活用し健康づくりに関する普及啓発に努めた。今後も町民が各種事業等でロゴマークにふれる機会を確保する。</li> <li>・地区担当による受診勧奨訪問、委託先や協定病院の拡大等の体制整備により特定健診実施率が向上した。今後は受診率向上のみでなく、特定保健指導や重症化予防など保健指導を充実させていくことが課題となる。</li> <li>・商工会と連携し野菜摂取をテーマにしたお弁当や総菜の販売・提供を推進し、</li> </ul>	保健福祉課

					利用者から好評を得たため、本事業の継続と実施方法の改善により町民全体の野菜摂取量の向上を目指す。 ・上士幌町健康ポイント事業の活用や教育委員会との連携により、健診後に運動プログラムが提供でき、利用者の運動習慣改善機会を確保できた。今後も利用者の拡大に努めていく。	
◇がん検診受診促進事業（医療との連携） ・乳がん予防キャンペーン講演会の開催 ・乳がん専用PET検診費用の助成	乳がん・子宮がん検診（好発年齢）受診率→100% (H26 19.8%) 胃がん・肺がん・大腸がん検診（好発年齢）受診率→20%(H26 17.0%)	H30年度推定値 子宮 30.7% 乳 37.4% 胃 19.2% 肺 18.5% 大腸 20.6% ※対象年齢（子宮 20～69歳、乳、肺、大腸 40～69歳、胃 50～69歳） ※乳がん検診は、国報告に準じ、PET検診を受診率に含まず。	・乳がん検診30歳代拡大（H29～） ・乳がん・子宮がんコールリコール ・乳がん専用PET検診 ・大腸がんイベント開催 ・人間ドックの胃カメラ検診導入 ・胃がん・肺がん・大腸がん特定健診対象者へ個別案内	B	（成果） ・大腸がんイベントにより、54人の受診者の拡大につながった。 ・女性がんキャンペーン事業について、個別通知、看板設置など普及啓発を継続している。 ・特定健診の受診率向上に伴い、全体的にがん検診受診率が向上した。今後はこれまで個別案内の機会がなかった社会保険の対象者へも胃・肺・大腸がん検診の案内をするなどし、周知方法の改善を図ることのでがん検診受診率向上を目指す。	保健福祉課
◇心の健康づくり推進 ・相談体制の整備 ・メンタルヘルスや自殺予防に関する普及啓発	自殺による死亡者数→0人（年平均2人 ※H20～24）	年平均 1.0人 ※H26～30 （十勝地域保健年報、厚労省HP）	・自殺予防対策行動計画理解促進のための普及啓発（広報、パネル展示、役場課長会議での情報提供） ・メンタルヘルス学習会（企業）の実施 ・ゲートキーパー研修会開催 ・心の相談日定例開催。	B	（成果） ・自殺予防対策行動計画を策定し、一般町民、関係者へ広報やパネル展示等の実施により、課題や取組みの必要性について理解促進の機会を確保した。 ・ゲートキーパー研修会の開催など相談体制の整備に努めた。 ・自殺による死亡者は減少したものの、誰も自殺で追い込まれることのない町を目指し、関係機関連携の強化のもと普及啓発活動を継続していくことが重要となる。	保健福祉課

◇地域包括ケアシステムの実現

KPI

小規模多機能型居宅介護利用者の登録者数	0人（H26末）→24人	達成度(30年度末)	24人 / 100.0%
まるごと元気アッププログラムへの延参加人数	15,600人（月65人×48週×5年）	達成度(30年度末)	9,301人 / 59.6%
地域活動支援センター等利用者数	13名（H26年 8名）	達成度(30年度末)	12名 / 92.3%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇地域医療を支えるための医療従事者等の確保 ・医師・看護師等の確保対策支援 ◇24時間365日を支える医療・介護体制の整備 ・救急医療体制の充実 ・在宅支援診療所の整備 ・医療・介護の連携 ・セラピストによる在宅リハビリテーション支援の実施 ・発達障がい児へのリハビリアプローチ ・介護職員初任者研修実施事業	医療機関等の数の維持 診療所2カ所、歯科医院2カ所、調剤薬局2カ所 訪問診療件数 (町内医療機関2カ所合計) 訪問看護件数(町内事業所2カ所、医療・介護含む) 訪問・通所リハビリの利用者数の増加 医療介護連携にかかる協議会開催数→年3回(H28中に協議体設置)	維持できている 訪問診療件数(年度) 延1,400件 訪問看護件数(年度)(医療・介護含む) 延349件 訪問リハビリ利用者 実12人 通所リハビリ利用者 実62人 協議体実施 H30未	・地域医療体制及び救急医療体制を維持するため、社会医療法人北斗上士幌クリニック運営の不採算分に対する補助を実施。 ・地域リハビリテーション支援事業により、要介護認定前の二次予防が必要な高齢者に対する理学療法士による訪問指導や介護予防事業での相談支援を推進し早期からの連携を図る。 ・上士幌調剤薬局や上士幌歯科クリニックによる訪問支援(居宅療養管理指導)の実施。 ・居宅療養管理指導については、新たに事業展開する薬剤師と歯科医師及び歯科衛生士を講師として、関係者間での研修会を実施。 ・ケアマネ連絡会にて、十勝における入退院時連携ルールに係る最新情報の提供、並びに町内ケアマネが考える課題について意見交換を実施。 ・地域の医療・介護資源の把握として、かみしほろ在宅医療・介護事業所ハンドブックを作成。 ・介護職員初任者研修をまちづくり会社に委託し実施	B	(成果) ・医療・介護の連携については、定期的で開催している地域ケア会議を活用し、医師をはじめとする医療関係者と介護関係者により課題検討や情報交換により連携を持っている。他にも町内の介護支援専門員で構成する「ケアマネ連絡会」を開催し、事例検討や利用者支援についての情報交換を行っている。 (課題) ・医師の高齢化は課題であり、24時間365日の救急医療体制を踏まえた地域医療の確立のため、安定的な医師体制の確保が必要。 ・デイケアに利用者が一極集中せず、デイサービスや地域のサロン、介護予防教室等との循環を図る必要がある。	保健福祉課
◇介護度の維持及び重度化防止のための介護サービスの充実と利用促進 ・居宅・施設・地域密着型サービスの充実 ・介護サービスの質の向上 ・利用者負担への支援	介護度の改善率の上昇 施設サービス利用者の割合23.2%(H26末)→維持 小規模多機能型居宅介護利用者の登録者数0人(H26末)→24人	要介護認定更新・区分変更者における介護度維持・改善率 62.0% 要介護認定率 18.9% 施設サービス利用率 19.8% 小規模多機能型登録数 24人	・有効期間内にサービス利用の実績がない対象者へは更新しないことを推奨。 ・総合事業のみを利用している高齢者については、要介護認定更新よりも事業対象者としての総合事業利用を調整した。 ・認知症による服薬困難や身体機能低下により頻回な訪問支援が必要な事例については、宿泊機能も有する小規模多機能型居宅介護への利用調整を図った。	B	(成果) ・要介護認定者の中では、要支援1～要介護1が大半を占めている。早期の認定により適切な支援へと繋がることで、重度化の予防が図られていると考えられる。 ・要介護は軽度であっても認知症により多様な支援が必要となる事例が増えている傾向があり小規模多機能型居宅介護の支援が効果的となっている。 (課題) ・小規模多機能型居宅介護の利用により、在宅生活支援が安定した事例については、他の在宅サービスへの調整を図るなど、必要とする対象者へのサービス内容が適切に提供されるような支援が求められる。	保健福祉課
◇介護予防の推進 ・健常時からの動機づけや生活習慣改善に向けた支援の強化	まるごと元気アッププログラムへの延参加人数 15,600人(65人×48週×5)	延参加人数 9,301人 達成率 59.6%	・年1回のお元気度測定会の実施により、心身機能低下がみられる方の早期発見、早期対応を行う。 ・高齢者実態調査で把握した二次予防事業対象者には、	B	(成果) ・3月末現在の登録者は73人。 ・8月末のお元気度測定会には、118	保健福祉課

<p>・官・NPO・大学との協働事業の推進(健康づくり・生きがいがづくり・人づくりに効果)</p>	<p>年)</p>		<p>まる元運動教室や運動自主サークル、サロン等への積極的な参加を働きかける。</p>	<p>名が参加。シルバー学級生の他、一般参加者が増えてきている。 (課題) ・教室参加者の定着率が高いため、新規加入が難しい場合がある。 元気な方でも継続希望者を修了とするのは難しいため、特に予防が必要な方が利用できるよう調整を図るのが課題</p>	
<p>◇認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す ・普及啓発及びパンフレット作成 ・認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催 ・認知症ケアパス作成 ・高齢者の見守り体制の構築</p>	<p>認知症施策にかかる協議体の設置及び協議会開催数→年3回 認知症初期集中支援チーム(専門サポート医等による対応 事例数)→年3事例 認知症ケア講演会の実施 認知症カフェの数→1か所</p>	<p>・十勝広域 1 町主催 0 ・集中支援チーム 3事例実施 ・認知症カフェ 年6回実施</p>	<p>・集中支援チームによるサポート実施 3事例 ・認知症に関する知識の普及啓発 認知症サポーター養成講座の実施 ・認知症カフェに大江病院の認知症専門看護師による講話実施 ・いっぷくしていく会及び専門職の協働による認知症カフェの偶数月定例開催 ・近隣自治体と共同連携による新たな徘徊見守りシステム(オレンジセーフティネット)の整備</p>	<p>(成果) ・初期集中支援チームは有効活用できている。 ・認知症カフェの開催により、参加者の認知症に対する理解が深まっている。 ・帰宅困難が予測される対象者(年度末現在7名)をオレンジセーフティネットとして登録済 (課題) ・初期集中支援の対象者把握によりチームとして早期支援に取り組む。 ・認知症サポーター養成講座を活用し、認知症への理解等の啓発活動の推進。</p>	<p>保健福祉課</p>
<p>◇住民のニーズに適応した隙間のない支援と住民による支えあい活動により高齢者が不安なく過ごせる環境づくりを目指す。 ・福祉協力員制度創設事業(高齢者等見守り体制の構築) ◇買い物や通院、見守りを支援する仕組みの構築 ・緊急通報システム ・除雪費助成事業 ・高齢者等福祉バスの運行 ・地域における互助活動推進(自主防災組織・サロン等) ・元気高齢者による買い物代行サービスの実施</p>	<p>小地域ネットワーク活動等地域活動の数→各行政区に1か所 生活支援にかかる協議体の設置及び協議会の開催数→年2回</p>	<p>・小地域ネットワーク活動実施行政区 5ヶ所 ・生活支援体制整備に係る協議体の開催 未実施</p>	<p>・高齢者等福祉バスの運行 ・地域における互助活動推進 ・除雪費助成事業(9名事前申請)及び除雪ボランティア事業(4名ボラ登録)の実施 ・緊急通報システムの実施(70世帯設置) ・社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターと協働で、市街地行政区長への地域実態調査実施に向けた働きかけや、小地域ネットワーク活動につながるサロン立ち上げ支援等を実施した。実施地区 6区・7区の1・10区の1。 ・地域包括ケアセミナーを実施し、町民や地域医療、介護、福祉関係者により暮らしやすい地域づくりについて話し合った。</p>	<p>○高齢者等福祉バスの運行 (成果) ・市街地線に水曜日を追加した。 (課題) ・火曜・金曜の便と同等程度の利用があるが、利用者が増えるようにしなければならない。上音更線、萩ヶ岡線の利用者がいないため、検討が必要である。 ○地域における互助活動推進 (成果) ・関係者や町内会とスムーズな情報共有を可能にする地域福祉支援システムを11月より稼働。 ・地域実態調査に関する町内会、社協と打ちあわせにより、要配慮者の把握やサロン活動等の必要性について共有できた。</p>	<p>保健福祉課</p>



					(課題) ・町内会と互助について話し合いをもつことにより、互助に対する意識をもち始めているものの、行政依存の傾向は強い。また、具体的な地区活動の実施方法等についても支援が必要。災害発生時の時のためにも、緊急連絡先の把握は早急に行いたい。	
◇高齢者の住まいの確保 ・高齢者見守り付安心住宅の整備 ・住宅改修やリフォーム費用の助成事業		住宅改修26件(介護保険) 上乗せ改修1件	・高齢者の在宅生活を支えるため、必要な改修への支援 ・高齢者が暮らしやすい住宅環境を整備するため、北団地の空き室2戸をバリアフリー化した。	B	(成果) ・福寿協会に近い北団地周辺を福祉エリアとして活用。空き室のバリアフリー化により、高齢者でも暮らしやすい環境を整えた。 (課題) ・見守り機能については、今後関係機関と検討が必要。	保健福祉課 建設課
◇権利擁護センター機能の充実 ・成年後見制度をはじめとする権利擁護事業の利用促進	市民後見人養成研修の受講者数6人(H26年度) →15人 権利擁護センター(法人後見)の成年後見制度受任件数1人(H27年8月)→5人	市民後見人養成研修の受講者数8人(H29年度) 権利擁護センター(法人後見)の成年後見制度受任件数2人	・市民後見人養成研修修了者の活動を支援する。 ・権利擁護に関する相談を受け、金銭管理が困難な高齢者等の生活を支援する。 ・地域包括支援センターと権利擁護センターの連携協同により、成年後見制度の利用相談及び手続等について支援している。	B	(成果) ・判断能力に不安がある本人やその家族、ケアマネジャー、金融機関などから様々な権利擁護に関する相談を受け、地域包括支援センターや家庭裁判所等と協働して支援している。 ・認知症高齢者と経済的虐待を受けていた軽度精神発達障害者の金銭管理などを権利擁護センターが法人として2件受任している。 (課題) ・権利擁護センター機能の周知・広報と関係機関との連携により、権利擁護を必要とする対象者への適切な支援を行う。	保健福祉課
◇生きがいづくり ・高齢者等の外出の機会を増やし、生きがいとなる活動の機会と働く場を確保する ・高齢者の居場所づくり(地域サロンの開催・まちなかサロン・サークル活動・老人クラブ活動など) ・地域活動ボランティアの育成 ・元気高齢者の短時間就労の構築	65歳以上で週1回、各種活動の参加割合→70% 福祉ボランティア登録人数(社会福祉協議会所管)→80人 生きがい事業団(仮称)の設置→1か所	・基本チェックリストで「週1回以上外出がある」人の割合 92.3% ・福祉ボランティア登録数 維持 ・介護支援ボランティアポイント事業登録者35人(前年度比±0)	・介護支援ボランティアポイント事業の実施やボランティアミーティングの開催で活動の活性化を図る。 ・社協の地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターと協働しながら、地域活動の活性化や互助活動を推進する。	B	(進捗状況) ・介護支援ボランティアポイント事業は、社協ボランティアセンターが運営し事業は軌道に乗っている。 ・まちづくり会社により、今年5月に人材センターが開設され、徐々に登録者を増やしている。 (課題) ・ボランティア登録者の増加に向けた取り組みと受け入れ機関の拡大、活動内容	保健福祉課

		・上士幌町人材センター開設 1か所			の充実 ・高齢者の集いの場づくりに関しても、地域実態調査を進めながら地域に働きかけていく必要がある。	
◇障がい者雇用の促進・支援 ・地元企業への就労の理解 ・障がい者福祉的就労の場の確保 ◇国等による障がい者就労施設等からの物品等の調達の推進	障がい者就労継続支援B型事業所の設置→1か所  物品等の調達目標 2,000千円 (1,501千円 H26・1,571千円 H27) (現状:花苗・指定ごみ袋保管・配送業務・花壇整備・管理業務など)	就労継続支援B型事業所 1か所  物品等の調達実績 4,583,321円 98.6%	・就労継続支援B型事業所の運営費を補助した。  ・町が障がい者就労施設等から物品等を調達した。 平成30年度目標 4,650,000円	B	・就労継続支援B型事業所の支援員(人材)の確保及び利用実績向上による安定的な事業所運営が課題。 ・事業所の受注機会をさらに確保するため、事業所等と協議し、実施可能な業務の確認作業をすすめる。	保健福祉課
◇町内障がい福祉サービス事業所(地域活動支援センター等)への通所利用促進	地域活動支援センター等利用者数(H26年8名)→13名	利用者数 12人 92.3%	・潜在的な利用ニーズの把握に努めた。 ・平成30年度中の新規利用者1人。 (転出、死亡による減員2人のため増減-1人)	B	・関係機関と連携しながら相談支援を行い、潜在的な利用ニーズの把握に努めた。 ・工賃向上などが事業所利用者の就労意欲向上につながり、利用率は向上している。	保健福祉課

#### 4 移住定住による人口減少をくい止めるまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年度末)
転入・転出人口	転出超過250人（2010～2014）	転入155人 転出90人（転入超過65人）	転入超過 229人 / 352.3% (H27年度 48人、H28年度 67人、H29年度 75人 H30年度末 39人)

◇ひとの流れをつくる多様な就労拠点の整備と地域住民による受け入れ体制の構築

KPI

移住相談件数に対する移住件数の割合 1.5%（過去5年）	2.0%/年	達成度(30年度末) 1.8% / 90.0%
------------------------------	--------	-------------------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇テレワークの推進			<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年度4月より常設の「上士幌町お試しオフィス」を設置。（民間賃貸住宅を借り上げ）</li> </ul> 今後の対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年度補正予算「地方創生拠点整備交付金」に「上士幌シェアオフィス整備計画」が採択（整備はH31年度）となったため、お試しオフィスの設置（民間賃貸住宅の借り上げ）を中止し、テレワークの推進についても「上士幌シェアオフィス」を活用する。</li> </ul>	A	（成果） <ul style="list-style-type: none"> <li>・14組37名の利用があった。</li> </ul> （課題） <ul style="list-style-type: none"> <li>・お試しオフィスは民間賃貸住宅の借り上げであったため、複数の企業からの申込みに対応できなかった。</li> </ul>	企画財政課
◇企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）の活用			<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となる新規事業の実施にあわせ活用する。</li> </ul>	C	（成果） <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のところ活用できる事業がない。</li> </ul>	企画財政課
◇町民が上士幌町の魅力を伝える事業（道の駅整備等と連携）		—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅実施設計の実施</li> <li>・ナイタイ高原牧場レストハウス建設</li> <li>・各施設運営主体の設立</li> </ul>	A	（成果） <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅は、平成29年度の基本設計に基づき、30年度は実施設計が完了し、次年度は建設工事を実施する。テナント募集の結果2事業者が決定し設計に反映。道の駅等整備推進委員会や町民説明会を各1回開催した。</li> <li>・ナイタイ高原牧場レストハウスは竣工となった。施設名称は「ナイタイテラス」とした。平成31年4月27日先行オープン、6月3日全面オープンの宣伝活動を実施。</li> <li>・各施設の運営主体である「上士幌町観光地域商社（株）karch（カチ）」を平成30年5月に設立。道の駅実施設計への意見反映やナイタイテラス運営準備を行った。（株）</li> </ul>	商工観光課

					<p>karchは、平成30年7月に旅行代理業登録を完了し、モニターツアー（インバンド）を3回実施。電力小売り販売登録は10月に完了。公共施設、JA施設を先行して平成31年2月から販売開始し、次年度から農家、一般家庭への販売を予定。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発を進めるとともに、自立した経営を目指して推進する必要がある。</li> </ul>
--	--	--	--	--	---

◇かみしほろの発信力と価値の向上による交流と定住促進

KPI

イベント参加人数に対する相談件数割合3.3%	4.0%/年	達成度(30年度末)	11.0% / 275.0%			
ふるさと納税特典品として旅行商品を開発することによる入込客数	50組100人増加	達成度(30年度末)	482人 / 482.0%			
特別町民証の発行による来訪者数	500組1,000人増加	達成度(30年度末)	0人 / 0.0%			
実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇移住定住プロモーションの推進	移住・二地域居住者数 15名(H26)→20名/年	16名	○移住定住プロモーションを推進した。	A	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本気の移住相談会（東京 6/24） [来場者 319人] 29件</li> <li>上士幌暮らしセミナー①（東京 9/2） 24件</li> <li>北海道暮らしフェア（大阪 10/6） [来場者 850人] 74件</li> <li>北海道暮らしフェア（名古屋 10/7） [来場者 750人] 52件</li> <li>4町合同暮らしセミナー（東京 11/10） 30件</li> <li>北海道暮らしフェア（東京 11/11） [来場者 1,150人] 64件</li> <li>上士幌まるごと見本市（東京 11/25） [来場者 953人] 112件</li> <li>北海道 mini 暮らしフェア（大阪 3/2） 23件</li> <li>上士幌暮らしセミナー②（東京 3/16） 8件</li> <li>北海道 mini 暮らしフェア（東京 3/17） 28件</li> </ul> <p>【相談件数合計 444件】 【来場者数合計 4,046人】</p>	商工観光課

					<p>北海道規模の事業では、本町への相談者は他自治体に比較して多くなっている。今後の事業においても「生活体験、訪問⇒移住」につなげる相談体制を整えていく。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住・二地域居住者を増加させるために、継続的に上士幌町との接点の拡大やPRを行っていく必要がある。</li> </ul>	
◇ふるさと納税寄付者との交流の推進			<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年11月25日に東京プリンスホテルにて、寄附者1,000名を招き、「上士幌まるごと見本市2018」と題した交流イベントを実施した。</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者数 953名</li> <li>・来場者アンケート結果(151/953 回収率15.8%)により、95%の参加者がおおむね満足いただいた。また、99%がまた参加したいと答えている。</li> <li>・町特産品の魅力だけではなく、上士幌町を知る上で参考になったとの回答もあり、町の情報提供や応援人口との絆を深めるためには効果的なイベントとなった。</li> </ul>	企画財政課
◇移住・定住相談の充実	移住相談件数 470件(H26) →600件(単年度)	873件 145.5%	<p>移住相談件数 873件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント時相談件数 444件</li> <li>・上士幌コンシェルジュへの相談 429件</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロモーション活動やホームページ・SNSの充実を図り、上士幌コンシェルジュへの相談件数増加に向けた取り組みを進め目標を上回ることができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住相談件数を増加させ、移住・二地域居住者に結びつけるため、継続的に上士幌町との接点の拡大やPRを行っていく必要がある。</li> </ul>	商工観光課
◇ふるさと納税による交流人口増加対策			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングにより「起業家支援プロジェクト」「移住交流プロジェクト」の2プロジェクトを開始し、支援いただいた寄附者に、オープンするお店の食事券、ぬかびら源泉クーポン、移住体験住宅の優先利用権などのインセンティブをつけ、交流人口の増加を図った。</li> <li>・H30年4月総務省からの受託事業に採択され、上士幌町へのふるさと納税寄附者を対象とした「応援人口増加プロジェクト」を7月より開始。</li> </ul>	A	<p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「応援人口増加プロジェクト」では、かみしほろ塾総合講座第Ⅰ期へ寄附者2名、第Ⅱ期へ寄附者4名をイベントスタッフとして招待した。移住体験希望のあった寄附者の他、過去に仕事で上士幌町と繋がりのあった寄附者、友人が上士幌町に移住している寄附者など多様な寄附者を受け入れることができた。</li> </ul>	企画財政課

					・11月25日開催の「上士幌まるごと見本市 2018」では、953名の参加があり、中には過去複数回参加した寄附者もあり、町側スタッフとの交流が深まった。
--	--	--	--	--	--

◇滞在や定住に柔軟に対応する多様な施設整備

KPI

生活体験住宅数	5棟(H26)→10棟(H31)	達成度(30年度末)	10棟 / 100.0%
生活体験モニター参加者数	36組94名(H26)→50組150名(H31)	達成度(30年度末)	56組 132名 / 88.0%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇生活体験住宅等の充実 ・生活体験住宅の推進 ・民間賃貸住宅を活用した定住支援 ・多様な生活体験住宅の整備			・生活体験住宅数 10棟 ※町設置～短期用4戸、中長期用4戸 NPO設置～中長期用2戸  ・定住促進賃貸住宅助成事業 87戸 80,000千円	A	(成果) ・生活体験モニター参加数 56組 132名 (H29 56組157名) ・生活体験者数が前年比で減少しているが、1組当たりの利用日数が伸びていることが要因である。 ・生活体験住宅は、旧上音更小教員住宅をリフォームし、10月から利用開始している。 (課題) ・生活体験住宅を賃貸住宅で調整したが、目標棟数確保に向けて、検討する必要がある。  (成果) ・前年度実施の事業計画調査内容とほぼ同規模の事業が行われた。	建設課 商工観光課

5 小さな拠点形成を目指すまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年度末)
転入・転出入口	転出超過250人（2010～2014）	転入155人 転出90人（転入超過65人）	転入超過 229人 / 352.3% (H27年度 48人、H28年度 67人、H29年度 75人 H30年度末 39人)

◇まちの整体（公共施設再編によるコンパクト化推進）

KPI

公共施設再配置	計画に基づく推進	達成度(30年度末)
---------	----------	------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇多機能型生涯学習センターの建設（H28）			・「わか」西側に63台分の新たな駐車場を整備した。	A	（成果） ・周辺環境の整備が図られた。 （課題） ・暑さ対策等利用対象者の利便性を考慮した施設環境の整備を進める必要がある。	生涯学習課
◇老朽施設の解体撤去補助			・町内の老朽施設の解体撤去に係る費用に対して1件あたり上限50万円を補助する。予算額 800万円	A	（成果） ・老朽施設の解体促進が図られている。 件数 10件 補助額 424万円 （課題） ・固定資産税納税通知書の発送と併せて補助制度概要を同封し制度周知に努めているが、申請にいたらないケースもある。	町民課
◇小規模まちなか挿入型住宅整備			・昨年度建設した全8戸の入居完了。	A	（課題） ・次期まちなか挿入住宅事業の具体的計画を策定する。	建設課
◇子どもや若者のための居場所づくり			・新生涯学習センター「わか」におけるサークル活動や会議、講演会等の利用が進んだ。また、カフェくれよんもメニューの改変等を行い営業した。 ・予約のない会議室等を自習等の場所として開放した。 ・「わか」屋内外で利用できる遊具の貸出しを行った。 ・将棋クラブや町民有志による「みんなの広場」の開催等により異世代交流が図られた。	A	（成果） ・サークル活動や会議、講演会等の利用やカフェくれよんの営業等により様々な世代や立場の方々の間で交流が図られた。 （課題） ・カフェくれよんの運営を通し、障害者やその自立支援に対する理解が進むよう利用の促進を図る必要がある。また、さらに、障害者を含め様々な立場や世代の方々の間の交流を図る必要がある。	生涯学習課

◇移動の利便性向上

K P I

農村部から市街地までの利便性に対する充足度（H27調査）	向上	達成度(30年度末)
------------------------------	----	------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇地域交通ネットワークの構築			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通のあり方検討の実施</li> <li>町の公共交通の現状と課題を把握し、地域交通ネットワーク（ソフト展開）の構築を進める。</li> </ul>	A	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上士幌町交通ターミナルを平成30年4月20日より供用開始。</li> <li>路線バス、町内循環バス、スクールバス、都市間バス（帯広―旭川）の停留所としてだけでなく、昼食や休憩場所として利用されている。</li> <li>※開館時間 6:00～21:00</li> <li>H30/4/20～H31/3/31 利用者 14,064人</li> <li>ただし、4/20～8/3 は 9:00～17:00 のみの集計。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス駐車スペースへの外部車両の駐車など、施設運営における細かな課題が生じたため、都度適切に対応した。今後も多様な課題に対応し、利用者にとって安全・安心な施設を維持する。</li> <li>・幅広い世代の施設利用が見られた。今後近隣公共施設や商店街への誘導などソフト面での充実を更に図る必要がある。</li> <li>・平成31年4月27日より、窓口にてレンタサイクルの貸出を開始している。</li> <li>・今後整備予定である道の駅との相互連携に向けた検討を更に深めていく。</li> </ul>	企画財政課
◇国道等主要道路の整備拡充による第2次・第3次医療への移動時間の短縮	(関係機関に要請)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備拡充の実現に向け、引き続き要望等を行った。</li> </ul>	A	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自由民主党政策懇談会及び国・北海道に対する事業要望項目として、国道241号片側2車線化を要望した。</li> </ul>	企画財政課



◇地域活性化拠点の整備

K P I

新規雇用人数	15人	達成度(30年度末)	—
--------	-----	------------	---

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇重点道の駅「仮称バルーン」整備		—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅実施設計の実施</li> <li>・ナイタイ高原牧場レストハウス建設</li> <li>・各施設運営主体の設立</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅は、平成29年度の基本設計に基づき30年度は実施設計が完了し、次年度は建設工事を実施する。テナント募集の結果2事業者が決定し設計に反映。道の駅等整備推進委員会や町民説明会を各1回開催した。</li> <li>・ナイタイ高原牧場レストハウスは竣工となった。施設名称は「ナイタイテラス」とした。平成31年4月27日先行オープン、6月3日全面オープンの宣伝活動を実施。</li> <li>・各施設の運営主体である「上士幌町観光地域商社(株)karch(カチ)」を平成30年5月に設立。道の駅実施設計への意見反映やナイタイテラス運営準備を行った。(株)karchは、平成30年7月に旅行代理業登録を完了し、モニターツアー(インバウンド)を3回実施。電力小売り販売登録は10月に完了。公共施設、JA施設を先行して平成31年2月から販売開始し、次年度から農家、一般家庭への販売を予定。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町民をはじめ、関係機関、団体、事業者から様々な意見を頂きながら推進する必要がある。</li> </ul>	商工観光課

プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版生涯活躍のまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年度末)
上士幌版生涯活躍のまちによる移住	—	30世帯50人	20人 / 40%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
<p>◇上士幌版生涯活躍のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大都市高齢者の地方移住支援</li> <li>・地域社会との協働、スキルや知見の地域還元への推進</li> <li>・多様なプログラムや自主活動の構築により健康でアクティブな生活の実現</li> <li>・地域包括ケアによる継続的なケアの提供</li> </ul>	<p>中高年齢者の移住</p> <p>30世帯50人</p>	<p>20人</p> <p>40%</p>	<p>・生涯活躍のまちの取組みを推進した。</p> <p>(主な取組み)</p> <p>①地域包括ケアの充実</p> <p>ア 介護人材の養成・確保(初任者研修実施)</p> <p>イ 地域包括ケア充実に向けた提言</p> <p>ウ 障がい者グループホーム及び障がい者就労事業検討</p> <p>②生涯活躍の場の創設</p> <p>ア かみしほろ人材センターの運営 短時間・簡易な仕事を請け負う人材センター運営</p> <p>イ 生涯活躍かみしほろ塾の運営 講演・実践を通じて町独自の学習機会を提供するとともに、次年度以降の講座内容を検討 総合講座、専門講座(写真・料理)、起業塾</p> <p>ウ 健康づくり促進対策事業実施(健康ポイント事業)</p> <p>ウ まちなか空き家空き地活用検討 移住者等が起業にチャレンジする拠点の整備を検討</p> <p>⑤移住希望者募集</p> <p>町や関係団体が実施するセミナー・移住相談会への参加</p> <p>中高年齢者向け住宅のニーズ調査</p> <p>移住希望者に対する仕事や住まいのマッチング支援</p>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員初任者研修 町民12名受講、全員合格</li> <li>・地域包括ケア充実に向けた提言 北星学園大学教授に依頼 セミナー2回(町民向け(37名参加)、関係向け)</li> <li>・障がい者グループホーム等検討 関係課学習会(1回)、事例調査(道内17施設)</li> <li>・人材センター 会員19名、受注62件</li> <li>・生涯活躍かみしほろ塾 7月から継続的に講座を開催した。 総合講座 3期6日延べ1,142名受講 写真講座 全6回延べ64名受講 料理講座 全4回延べ68名受講 起業塾 3期 16名受講</li> <li>・健康ポイント事業 7月から実施、約384名参加</li> <li>・空き家空き地活用検討 ワークショップ3回実施</li> <li>・移住希望者募集 セミナー等参加7回、住宅ニーズ調査、人材センター・無料職業紹介活動実施(課題)</li> <li>・引き続きまちづくり会社と連携の上、取組を進める必要がある。</li> <li>・現行の地方創生推進交付金事業計画期間が終了するため、次年度以降の計画を検討する必要がある。</li> </ul>	<p>企画財政課</p> <p>保健福祉課</p>

